

巣立つ卒業生に心をこめて 食を考える会から「祝い菓子」



多目的ホールで行われた贈呈式。きれいにラッピングされた一つひとつにメッセージが添えられていました

3月5日、「飯館村食を考える会」が、飯館中学校の3年生に、卒業祝い菓子を贈りました。祝い菓子は、顆粒大豆や白ごまなど、体によい食材を使ったクッキーで、当日の朝、地域活性化センター「いちばん館」で、会の皆さんが手づくりしたものです。祝い菓子を手渡した菅野一代会長（比曾）は、「おめでとうございます。皆さんの力は大きい。飯館の未来を引っ張って行ってほしい」とはなむけの言葉を贈りました。また、生徒を代表し、千葉萌香さんが、「ありがとうございます。夢に向かって前進したい」と感謝を伝えました。



交付を受けた高橋さん（中央）と菅野村長。右端は同行した父親の正弘さん。村長室にて

フェンシングで全国大会へ 村もエールを送ります

3月6日、村役場で、県立川俣高校1年生の高橋智さん（白石）に、全国大会出場激励金を贈る交付式が行われました。高橋さんは、昨年4月から、同校フェンシング部で競技に取り組んできました。3月下旬に愛媛県松山市で開催される第43回全国高等学校選抜フェンシング大会で男子フルレ（団体戦）に出場することとなり、村が激励金を贈ることを決めました。高橋さんは、「友達に誘われ始めました。勝負の世界なので、勝ちたいと思っています」と大会への決意を語りました。



3月5日、飯野地域福祉センターでの開催が最終回となりました。長期にわたるご参加・ご支援、ありがとうございました

ありがとう「いきいき体操教室」 7年間の開催に幕

平成24年1月にスタートした「いきいき元気教室」。村地域包括支援センターと県北保健福祉事務所が協力し、仮設住宅9か所・借り上げ住宅3か所で開催してきましたが、仮設住宅等の供与期間終了に伴い終了することになりました。担当者として各地の教室を訪問してきた同事務所の林和彦さんは、「逆に元気をもらっていた感じがします。それぞれの場所で出会った皆様の笑顔が、今も私の中に残っています」と振り返り、「何事にも無理せず、これからも元気に過ごしていただきたい」と話していました。

埼玉県春日部市で 復興を歩む村の姿を発信

2月16・17日、埼玉県春日部市中央公民館で開催された「春日部市16公民館合同フェスティバル」に村の特産品コーナーが設けられ、ナツハゼのジャムや甘酒、いいいて雪っ娘カボチャの加工品などを販売しました。また、3月5日から10日には、同施設の防災関連イベントの中で「復興を歩む～福島県飯館村『広報いいいて』から」と題したパネル展が開かれ、最終日には渡邊とみ子さん（前田・八和木）の講演「ふくしま『福幸』のために!」が行われるなど、村の復興の足取りが紹介されました。



「応援してるよ」「頑張ってるね」など春日部市の方々からあたたかい励ましの言葉をいただきました

長い間ありがとうございました 閉所に向かう「あづまっぺ」で

松川第一応急仮設住宅（福島市）敷地内のサポートセンター「あづまっぺ」。平成23年11月の開所以来、避難先で高齢者とその家族を支えてきましたが、3月末での閉所が決まり、デイサービスも2月28日に最終日を迎えました。開所時から管理者を務めた社会医療法人秀公会職員の菊田裕樹さんは「村の皆さんを支えたいという職員の気持ちがこの事業所をつくってきた。利用者さんに会えなくなるのはさびしいが、次につながる前向きなことに捉えたい。皆さんに元気で長生きしてほしい」と思いを語りました。



デイサービス最終日の活動の様子。午後には職員が手作りの卒業式を開いて利用者を見送りました

卒業生の誇りを胸に 飯館中学校同窓会 入会式

3月5日、飯館中学校の同窓会入会式が、多目的ホールで行われました。式には、数日後に卒業を控えた3年生が出席し、赤石澤涼さんが「入会のことば」を述べました。また、新たに入会する生徒を前に、小山茂会長（草野）があいさつし、「皆さんの活躍に力強い希望を感じてきたのは私だけではないと思う。先人も幾多の災害を乗り越えて来た。大切なふるさと飯館の未来の発展に思いを馳せよう」と呼びかけ、地域とのつながりが今後の人生に必ず生かされていくと語りかけました。



地域の人の思いがこもった学校であることを伝える小山会長（右端）と真剣に耳を傾ける生徒達